

2015年(平成27年)6月22日(月曜日)

分野別に事業展開の方向性検討

塩化ビニル管・継手協会総会
50年経過した下水道管の検証を



根岸会長

塩化ビニル管・継手協会(会長 根岸修史・積水化学工業会長)は5月22日、東京都千代田区の如水会館で平成27年度定

時総会を開き、平成27年度の事業計画・予算案を決めた。

26年度の出荷量は、塩ビ管が前年度比14・9%減の28万3786ト、塩ビ継手は同16・2%減の約2万8865トとなり、塩ビ管・継手合計で同15・0%減の31万2651トとなった。また、リサイクル事業で受け入れた使用済み塩ビ管の量

は、同12・2%増の1万8466トと大きく増加しており、循環型社会に貢献している。

27年度事業では、今後の事業展開を中長期視点に立って分野別(水道、下水道、農業用水)、普及・啓発活動などの項目ごとに検討するワーキンググループを設置し、方向性が打ち出された項目から順次具体化する。また、平成25年度から3カ年計画で進めている普及・啓発活動について、上水・下水・農水分野を所

管する自治体に対して、今までの2年間の活動で得た知見を採り入れ、塩ビ管の耐震性や耐久性を効果的にPRして普及拡大を目指す。さらに簡易水道事業を行う自治体やコンサルタントにも塩ビ管の特長や優位性をPRしていく方針だ。

技術関連事業としては、塩ビ管の長期寿命の検証を行う。具体的には、布設後10年以上経過した水道管(RR管)、水道管・下水道管のゴム輪の評価を行う。また、これ

まで埋設後35年を経過した下水道用塩ビ管の評価を行い、外観や管の接合部の性能について異常がないことを確認したが、今年度は50年程度経過した下水道管の検証を行うとしている。

総会終了後には、グローバルウォーター・ジャパンの吉村和就代表が「海外水ビジネスの動向と塩化ビニル管の将来性」をテーマに講演を行い、塩化ビニルの高機能化・新製品開発の考え方に言及した。